

2020年12月4日（金）区民版子ども子育て会議

ZOOM 裏方会場：しゃれなあと スワン

19:00-21:00

松田）区民版2回目がオンラインでできることになりました。今日はいつもより遅めの19時にしてみました。

今、40人ちかくいることになるので早速始めていきたいと思います。

今日のテーマは地域子育てコーディネーターを中心に地域のネットワークについて。

そもそも区民版から始まった子育ての見守りのネットワークでもあるので、前半コーディネーターの皆さんからの話。でこんなのがあったら

担当部署の子ども家庭課からも来ていただいていますのでどんな意図があつてなど、行政側の話も聞いていきます。

その後皆さんで、そういうことならこんなことできないかな、とかそもそも足りないことなどみんなでアイデアを話していきたいです。

全員での自己紹介は難しいので、あとでグループに入った時にお願いします。

（いつも区民版に参加していただいていた矢島さんが昨年秋に亡くなられたということでご冥福をお祈りいたします）

最初に世田谷区地域子育て支援コーディネーターさんに、前半にどんなことをしてきたのか話してもらおうと思います。5年間で地域のネットワークづくりのことをしてきたので、その話をしてもらいます。

区民版子ども子育て会議とは・・・

名前がついてから6年くらい。オフィシャルな子ども子育て会議があり、行政で計画を作っているが、地域側でも計画策定と平行して市民の対話の場を作ろうとできた。→小さい人数でもできるが、多いときは70名とかの参加もあったときもある。

- ・行政の人もいますが、要望の場ではなく、フラットな立場で参加
- ・手弁当で始める（数人からでも、いつからでもできる）
- ・対等な立場で要望の場ではないことを確認 「切れ目ない支援」「外遊び」「働き方」などしてきた
- ・場所は行政が確保してくれるようになった
- ・終わると必ず懇親会（今は辛抱・・・）アフターで親睦も深めた

<最新の子ども計画素案の図（子ども・子育てネットワーク）を示す>

地域子育て支援コーディネーターは、普段は地域にいますが、包括支援センターのネットワークにもはいつています。おでかけひろばと連動しています。

拠点事業。5地域に1カ所+中間支援センターからコロナ禍のことでもいいですし、地域でどんなことをしてきたかなど話をさせていただきます。

では、砧地域の三瓶さんお願いします。

<砧地域 三瓶さん>

きぬたまの家の三瓶です。ひろばが休止になってもコーディネーター業務は継続（対面はNG）

今までの相談者の方たちにメールや電話をした。新たな相談が来るのでは、と思ったが当初はさほど来なかった。緊急事態宣言が解除された6月頃から増えた。自分だけが弱音をはいてはいけないのでは、と我慢して無理していた。

相談やアンケート分析から

家族が家にいることで思った以上に一人ではなくワンオペではなかったという人もいるが、全員が家にいるから息苦しかったり、うまくまわらないという人もいた。

砧地域はがん治療の人（主にお母さん）が多く、感染予防や子育てがうまくいかない相談が多かった。なかなか外に出れないということで家庭に伺って、支援につなげて協働してイメージしてたものが具体化されてきた。今も子どもフードパントリーの案内をきっかけに、困っているであろう家庭により深く入っていくことで、本当に困っている心配事や不安を話してもらえるようになり、次の展開につなげるようになったのも多かったです。

ま) 丁寧にしていただいている、ひろばに来れない人にも個別支援もして、伴走されきているのも、よかったです。

続いて烏山地域の松本さん、お願いします。

<烏山地域：せたがや子育てネット（ぶりっじ@roka） 松本さん>

烏山の松本です。コロナになってたけど、子ども計画の第二期が始まって、児童館と社協と子育てコーディネーターで地域の資源開発をしていく、連携の図式がはいつた。コロナで動けない中、ひろばに来る人だけでなくアウトリーチして、悩みをちょっとずつひろいあげてきていたが、アウトリーチができなくなった。北烏山のアウトリーチができなくなって、地区会館を利用したり、保育園での昼寝中の時間帯で園庭と園社内を借りれることになり、アウトリーチ先として開拓し話を聞いたり相談にのっている。時間制限、人数制限があり、コロナ禍での出産された人はどう地域に出ていっていいかもわからない。活動が小さくなっている。他の家庭を見れてないので、自分の子育てが不安になっている。おでかけひろばで他の家庭を見ることで解消されていた小さい悩みが、1才近くまでまだモヤモヤしている人が多くいることがわかった。まだまだ資源を作らないといけないと持っている。社協さんとの3者会議にも参加するようになり、正式に烏山の社協さんと連携していけるようになった。児童館との会議もあり、地域で縦割りではなく、どこかで困っているという声を出せたら、関係者で解決できるつながる網目をつくっていききたい。

ま) 三者連携は地域包括支援センターでのネットワークに、エリアにいる子ども向けケアマネージャーのようなコーディネーターとして連携して参加。ダブルケアの人もいたらお手伝いできるといいなと思っているところ。連携はどうですか？

子育ての相談が複雑な問題もあり、私たちが応えられるにも限界があるので区の方につなげている。コロナ禍でも連携を取れていたのが、コロナの前からつながっていたのがよかった

ま) 次は北沢地域の **amigo** 石山さんから 5 年たって、どんな感じなのかをお願いします。利用者支援のプロセスなどもお願いします。

<北沢地域：子育て支援グループ **amigo** 石山さん>

石山) 北沢で 5 年やってきました。**amigo** のグループは 20 年ほど産前・産後の支援をしてきた。利用者支援事業の運営してきたなかで、健康づくり課や子ども家庭支援課、児童館との連絡をするようになってきて、情報交換しながら連携している。第二子妊娠の際には、その方に児童館職員からもひろばを紹介してもらえる。連携して地域の家庭を見守れるようになってきている。産前・産後セルフケア講座もコンテンツと講師も担当していて、転入手続きのときに公的な窓口でセルフケアを紹介してもらえて参加した人もいて、地域の身近な場でスムーズにつなげることもできて連携が成熟してきたのを感じた。

5 地域のコーディネーターの団体は得意分野がそれぞれにあり、**amigo** は病気障害のあるお子さんのいる人へのケアもしてきた。

児童館職員の異動でも、情報をつなげてくれたので、セクション・居場所が違って顔が見えて話がしやすかったり相談できる。守秘義務のなかで慎重に情報の扱いをし、子育て家庭が地域に相談してもいいと思ってもらえるのは有意義なことだと思う。

ま) 法人同士の連携もできたということで、なるほどと思いました。続けて、世田谷地域の板橋さんをお願いします。

<世田谷地域：古民家 **mamas** 板橋さん>

コロナ禍でハイリスク案件が増えてきた印象です。普段の相談ルートでないところから、訪問の際にひろばに行くようにと助言してくれて、ひろばに来る人が増えて来た。お子さんに関する相談から入るが、経済不安、夫婦の問題、復職の相談も昨年より増えている印象。母親学級、3、4 か月児向け相談もストップしているし、親のサポートもないなど孤独な子育てのスタート。行事なども中止になるなか、在宅ワークしていた孤独感からの泣きながらの相談もあり、メンタル的な心配もある。新しい支援のありかたも考えないと行けないかなと思う。今以上に行政とも連携とれたらいいかなと思います。

ま) 聞こえてきた声をまとめて子ども・子育て会議にも資料として提出させていただいたり、ひろばの有志で何回か話したりしたのですが、古民家 **mamas** の皆さんがまとめてくれました。世田谷地域は古民家 **mamas** のおでかけひろばにコーディネーターさんがいます。これは貴重な記録になるかなと思います。

引き続き、玉川のコーディネーターさん、山本さんをお願いします。

玉川は瀬田の「まーぶる」にコーディネーターさんがいます。玉川は外国にルーツのある親後さんやふたごちゃんが多いエリア。個別対応も丁寧に行っているエリアです。双子が多いという事で、まーぶるでふたごのサロンをはじめたり、等々力児童館でもふたごのひろばをつくりました。

<玉川：せたがや子育てネット（まーぶる）山本さん>

玉川コーディネーターの山本です。本当に双子が多くて、小さな会をまーぶるでひらいてみたら、そこに来ていた方が深沢の地域で双子の会を開いたママがいたり、等々力児童館でもふたごの会を児童間職員やコーディネーターとも相談してひらいた。あちこちで双子の会をしていたら、いろんな双子家族と知り合うようになった。子どもが大きくなったら、先輩ママとして参加してくれたりもしている。相談対応にのっていた双子の親が子どもが大きくなってから助かったと言ってくれることも。双子の会にはいろんな地域から来られる人も多い。玉川地域には三つ子ちゃんもいるので、同行したりすると大変なこと（通れない道がある、とか）を実感し、行政にも声を届けたりしている。

ま) みつごちゃんどうしで会わせるというのもありましたよね？

山本) お互い了承のうえで連絡取り合うようになった例もある。砧地域と玉川地域でしたが、互いに連絡取り合って遊びに行ったりするようにもなった。

ま) 多国籍の人たちのサロンもやってますよね？

山本) 地域柄、外国人のママも多く、多文化ママの会をまーぶるのイベントとして3回くらい実施。

多文化サロンをしているイクリスせたがやと連携でまーぶるで実施。日本語も話せるけど、母語で話せる嬉しさもあふれる。イクリスからその国のコミュニティも教えたりもしてる。多文化の会に来れる人は限られているが、相談対応している外国籍のママやパパともドキドキしつつも対応できることがわかるようになってきた。イクリスさんが中心に常時開催できる多文化のサロンのような場があるといいなと行政とも相談しているところ。

ま) 中間支援センターの話もお願いします。

<中間支援センター：せたがや子育てネット 入江さん>

中間支援センターの入江です。5地域の取りまとめ役のようなことをしています。産前・産後のメンタルや初めての困りごとが大小ある。少しでも不安を感じたら解消できるように予防的に見守り支える役割を担っている。世田谷区は地域子育て支援コーディネーターは民間団体に委託されているので、フレキシブルに動けたり汎用性がある。コロナ禍に発揮され、行政の集まりがストップするなかでもストップすることなく稼働。自粛期間は相談も減ったが、解除されてからの相談が増えた。コロナ禍で我慢していた様子がわかった。支援者側も横のつながりを生かして、オンラインMTGや情報交換をして知恵を出し合いながらやれることからやってきた。まだ制限はあるが、まだまだヘルプの声を出せない方もどう引き出すか、支えるかが課題。保健師さんが各家庭をまわっているなかで、家事育児支援サービスを抵抗するサービスとマッチングするのもはじまって1年たつ。困りごとが深い方もいることを実感。多胎児やメンタルの不調、一人親、家庭内のパートナーシップの問題、困窮など

重篤な案件も扱うようになってきた。5年たって多機関との連携や求められていることも増えている。もっと人数増やしてパワーアップしていきたい、連携も強くしていきたい。皆さんからの応援もよろしくお願いします。

ま) ありがとうございます。ちょうど6拠点のやってきた利用者支援のいろいろをみていただきました。断片的だったかもしれませんが、地域でできること行政の人たちと連携できることで、土台が太くなって来た感じがしています。今までの話を聞きながら、乳幼児に偏っているかもしれませんが、予防的にもっともっとできることがあるのではないかという話もしたいと思います。

この事業の管轄である子ども家庭課の増井さんをお願いします。

<子ども家庭課 課長 増井さん>

子ども家庭課長の増井です。改めて皆さまのご活動に御礼申し上げます。

(資料提示)

6年ほど前も子どもに関わる仕事をしていた。当時はまだ区にコーディネーターがなく少ないおでかけひろばが中心になって、それぞれに個別に活動していた。

当時ひろばの交流会をすすめていた。地域でつながっていくことが目的だった。その後は離れている間にコーディネーターができていた。

コーディネーターは利用者支援事業にふくまれている。

国に3つの類型 地域子育て支援事業は基本型に位置づけている。

特定型は子育て応援相談員は5つの子ども家庭支援センターにいる。 行政側 保育園の相談など。

母子保健コーディネーターは5支所の健康づくり課にいる。世田谷版ネウボラとして妊娠期からの相談にのる。

世田谷区地域子育て支援コーディネーターは、5地域に区に配置し、包括的な中間支援センター。

世田谷区で活動しているNPO団体に事業委託している事業。民間に委託することで行政では把握できなかったり、案内が難しい人や民間情報も伝えられる。当事者性を生かして身近な地域の中にあるおでかけひろばを拠点に相談業務を実施。身近なおでかけひろばを拠点にしながらアウトリーチがしやすい。区としてもアウトリーチをしてほしい。掘り起こし役になってもらうことが大事。生活の場で子育て家庭に折り沿ったサポートをして様々なことを担っている。妊娠期からの切れ目のない支援ということで、健康づくり課にネウボラ母子保健コーディネーターがいる。地域の中で孤立せず子育てできるように、区と地域と医療が連携。

身近な相談役として、この5年間でコーディネーターの方たちが保健師やケースワーカーと顔の見える関係になったのだなと実感。

新しい取り組みとして、児童館や地区の社会福祉協議会、子育て支援コーディネーターが蜜につながるといい。地域資源開発（新しい地域のなかで支援の枠組み）

当事者性ゆえの地域資源づくり（多胎児、外国籍も含め）ができてきて、ひろげていきたい。

地区レベルでのネットワークのなかで関わりながらこれからも様々な人達とつながっていけるといいと思っている。

ま) ここからグループタイム 今、参加者51名になっているのでそれぞれの6人のグループでの話をしてください。区民版のグループタイムではお題をだしていたので、いつものルールのように、「好きなお鍋の具」を言ってから話してください。グループタイムの時間は30分。ちなみにしゃれな一どには10人ちょっといるので、ここから入る人もいます。

～グループタイム終了～

20:30

ま) 皆さんお疲れさまでした。6グループあったので、それぞれのグループで話されたことを聞かせてください。

1グループだった人どたなかお願いします。

1グループ) 見城です。1グループでは、支援コーディネーターからはマンパワーが足りないという話がでました。相談も重くなって、資源を生かしきれないという悩みも。せっかく人材あるのにその人たちを使いきれないのは(お金の問題とか)もどかしい。土日に出ていくことまでしているのは大変なこと。相談できる場所は意外と世田谷は少ないという話も。他県に住んでいた方は身近にもっといっぱいあったという人も。もっとたくさんあれば気楽に相談できるのかなと思いました。障害のある子も多いのに、表に出てないし、知りきれてないからこそフォローしきれないのがモヤモヤするという話も。民間がやっている重要性は、行政ができないところも支えているのが世田谷としては良いしあつくなっていくと良いのかな。未就学児の相談が中心だが、もっと就学後も幅広く相談できるといいのかも、という話もでました。

2グループ) 澤田です。グループは支援を受けている人2人、支援している人4人でした。お金の話と親同士のつながり。おでかけひろばの運営費はどうなっているのか?という話も出た。(補助金をとるための時間があるならもったいないということから)親同士のつながりはおでかけひろばでできるのか?初めて来た人同士をおでかけひろばでどうつなげているのか?障害のある人、言葉が違う人などマイノリティの人は出ていきにくい、乳幼児の時期につながりができたらその後もずっとつながっていける。子ども会って今ある?という話も。子ども会はあるにはあるが減ってきているとか。自分自身はおでかけひろばに助けられてきた。親同士のつながりももてて、話すことでストレス発散になったり、ふかめし(こども食堂)でごはんを食べたりする時間も大切だった。

ま) 澤田さんは、利用者でありながら、関わってくれる人です。

3グループ) 伊藤が発表します。つなげていくがテーマで話した。蜜を回避するため会えなくなったが大きな課題。顔の見える関係性をどうつなげていくのか。オンラ

イン活用も大事。BOPだと集中してしまう、とか行かないとできない要たいきょう、要保護の問題。両親学級がひらかれないことでお父さんの関わりが減って、子育てしているお父さんの居場所がコロナで減っているのでは。お父さんのサポートをどうするのか？母親学級も開いているが当事者に情報がうまくいかない。オンラインやSNSをうまく活用していくことが大事。子どもと二人で行くのは昔のお父さんは恥ずかしいが、今は恥ずかしがらずにひろばにも父子で来る。児童相談所では、家庭に蜜でいることでの問題がある。課題ではなく、どんなことをしたらいいか。ロコミでつないでいたものをくろーずなSNSとか共有できる情報交換、物の交換情報などオンラインの可能性がひろがるのでは。こんなものがほしい、を人や資源を共有できるといい。ツイッター 情報が間違っていた場合の正しく説明できる人の存在オンラインでの課題。オンラインできない人との格差がひろがるのも課題としてあがった。ようたいきょうで関わっている各機関同士でやろうとしたときの迷い、オフラインでは顔がみえていたがオンラインではどこにつなげていたらいいのか。

4グループ) 辻川グループの発表です。子ども園の方、コミュニティ財団の代表の方、行政の辻川さん、支援コーディネーター、ひろばをしている人などいろんな人が集まっていた。具体的な事業内容なども聞いた。コロナ禍で新たな相談件数が増えたことだったが、具体的にどんなのが？復職、異動、離職など年度初めにはなかった仕事の相談が増えた。いろんな人が参加していて縦横つながっていてすごいね、という話も。

5グループ) 椎名(学生)です。コロナ禍出の子育て支援の話が中心。自分から支援が求められない人にどうして支援をつなげているのか？通りかかった人への声かけや保健師さんとの連携から支援につなげる。保育園を聞きに来た方にコーディネーターさんを直接紹介するなども。行政と民間が役割をわけるのはなく共に協力して支援が大事。コロナ禍で保護者や子供への影響も話した。外出の機会が減ったことで、他の保護者の話を聞けないことから、発達のことなど無用な心配や在宅ワークのご主人がいて家にいられないストレス、他の大人をみるとこわがる、人見知りする子どもたちの様子も聞いた。体感として保活相談が減った。予約制での相談だとあらかじめ調べてくる人や入れないと自覚して緊急相談ができない人いるのではないか、という話を聞いた。

6グループ) 砧地域のおまです。コロナになってから以前より複合的な悩みを抱える方が増えてきた。経済的困窮や一人親、メンタル面での不調など一つではなく複雑に入り混じって悩んでいる人もでてきている。根底に抱えている悩みを知って、みなで手を携えて支えていくことが大事。孤立しない支援ができたらいいいね、と話した。オンライの活用が後半にでた。コロナで急速に広がったオンラインで、行きたくても行けなかった人も家から交流できるようになった。コロナとは関係なく行きたいときに気軽に参加できる壁をとっばらえたプラスの面の気づきがあった。Zoomに抵抗を感じる人も少なからずいる。ご主人から家庭からのzoom参加をやめるように言われる人もいるらしい。Zoomに限らずそれ以外のアプリの活用やガイドラインを考える場も必要かも。オンラインでよかったのは、ひろばのスタッフと画面ごしに接することでご家庭の様子も垣間見れることで新しい発見も。おもちゃとか柵の様子など家庭の様子もみえて話しやすくなったという利点も。ふたご、みつごの親は逆にオンラインで助かっているのでは。移動が大変な障害のあるお子さんのいる家庭などもオンラインで喜ばれているという話も。児童館やひろばにコロナ感染を恐れて出ていくことに不安や抵抗を感じる親もいる。家以外で出かける商店街のスペースやお店に大きなスクリーンでオンライン交流などもいいのでは？児童間でも大き目のスクリーンで複数組の親子とそれ以外の人と広く交流できるとよりいいのではないか、という話も出た。

ま) ありがとうございます。

皆さんが言ってくださったことを地域に生かせるなどか、しっかり根付くといいなと思っているところです。悩みを打ち明けてくれた方がいるから、必要な支援がわかる、支援につながる。日常的に話せる人がいるというのも大事。区民版で皆で話した時に人口も多いし、つなぎ役が必要だ、という声もあり6年前に応援してもらえてコーディネーターができたという経緯もあります。コーディネーターはつなぎ役として、どこをつなげたらいいかという役割とちょっと気になる人に声をかけたり、紹介ししてくれるのもせたがやチックなところはと思っています

最後は辻川さんをお願いします

<辻川さん>

担当していて普段の声を報告書としてみているが、具体的な話を聞く機会はなかなかない。行政ではとどかないところや普段相談できない人からも引き出しているのが非常にありがたい。行政の機関とも連携している点では、区役所も人が足りない中で頑張っているので工夫しながら、いろんなところでひろったり、つながったりするなかでアイデアも生まれることもあると思うのでコミュニケーションをとっていけたらと思います。

ま) ありがとうございます。皆さんが資源と思ってこれからもやっていこうと思うので、よろしくをお願いします。月齢が乳幼児に偏っているようですが、小学生とか外遊びにつながっていくといいなと思います

●保育の相談を受けているのですが、保育園の相談は、窓口ではまだまだ減っていませんので補足します。窓口とコーディネーターさんと連携してつながっていきたいです。(コーディネーター=基本型/子育て応援相談員=特定型)

21:25 次回はまだテーマ決まっていますが、そとあそびなどのリクエストが来ています。

ZOOMでのオンライン区民版子ども子育て会議は以上